



アンネのバラ

吉高人権だより

2022年 6月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

「きぼう」を追って

国語科 山中 恵

以前から機会があれば見たいと思っていた、国際宇宙ステーション「きぼう」。先日、「日本上空を通過する、天気の観測条件もよい」というニュースを知り、夜空を見上げることにしました。「きぼう」は、地球1周を90分で回っているのですが、これまでも観測チャンスは何度もあったのですが、曇っていたり、見逃したりして、私自身がなかなかうまく巡りあうことはできませんでした。それもあって、「今回こそは・・・」と、高ぶる気持ちを抑えつつ、月夜でやや明るめの夜空をじっと眺めること数分。通過予定時間になった、その時、南西方向の暗闇から、星のような、輝く光がふわっと出現。思わず、「きた！」と呟きました。「宇宙から、この地球はどう見えているのだろう。」そんなことを考えながら、光の軌跡を追いました。美しいその光は、上空をゆっくりと滑らかに通過。瞬く間に、遠い暗闇のその先へ、そっと消えていきました。わずか4～5分ほどでしたが、実際、自分の目で見ることでできたのもよかったのでしょうか、自然の天体現象の観測とはまた違う、久しぶりに心を揺さぶられる出来事でした。

国際宇宙ステーションは、地上約400kmに浮かぶ有人宇宙実験施設で、世界15か国が参加協力しています。日本実験棟「きぼう」は、その一部です。先人たちの努力が実を結び、特殊な環境での実験や観測が行われています。そして、さらなる進歩を目指し、日々研究を重ねてくださっているおかげで、今の私たちの豊かな暮らしに役立つことも多々あります。そうしたプロジェクトに至るまでに、多くの宇宙飛行士の皆さんの活躍がありました。その中でも、1994年に宇宙に旅立った日本初の女性宇宙飛行士の向井千秋さんが印象的です。当時、将来の進路を大いに迷っていた私は、長い年月、宇宙に挑戦され続けた姿にいろいろ考えるきっかけをいただいたような気がします。

今、この地球上には、紛争や戦争が起こっている地域があり、そして、悩み苦しんでいる人も大勢います。多くの人に関わり、夢を託す「きぼう」の清らかな光が、そのまま未来への希望の灯りとしてつながってほしいと願わざるを得ません。今回、初めて動く「きぼう」を見て技術の素晴らしさに感銘を受けるとともに、改めて平和の尊さを感じました。これからも周囲の人たちへの感謝を忘れず、置かれた環境を大切にしていきたいと思えます。

(参考:宇宙航空研究開発機構(JAXA)HPより)

【未来へつなぐ社会共生プロジェクトの取組】



昨年度から取り組んでいる「未来へつなぐ社会共生プロジェクト」の取組で、人権委員会と家庭クラブで協力して高齢者施設に花を届けています。中間考査の最終日、5月20日（金）に、グラジオラスなどの植え付けを行いました。花が咲いたら配達に行ってきます。



また、6月3日（金）には、普通科1年2組の生徒のみなさんが、ひまわりの種を植えてくれました。こちらも花が咲いたら高齢者施設に持って行きます。

【人権だより5月号の感想】

人権だより5月号の感想が寄せられたので、いくつか紹介します。

ローザという女性のように、自分の信念に誇りを持ち一人で差別に立ち向かう姿は、誰もが見習わなければならないと思いました。また、たった一人の勇気ある女性の行動が世界を大きく変えたことに私は感心しました。

ローザのように1人だから、劣勢だからと怖気付かずに正しいことは正しいと言えるような人が周りを変えていけると思いました。自分も正しいことは正しいといえるローザのような人になりたいと思います。

ローザの勇敢な姿が後々の人々に影響を与えているし、本当にすごいな。と思いました。実際、私がローザの立場だったとして、正しいことでも私は立ちすくんで動けないな。と思います。私もそう言った行動が取れる人間になりたいと思います。